

【通し番号】 20210004 【目次（分野別）】 その他

日本の企業におけるアブセンティズム、プレゼンティズム、および
医療費と医薬品費などの健康関連費用のコスト

Total Health-Related Costs Due to Absenteeism, Presenteeism,
and Medical and Pharmaceutical Expenses in Japanese
Employers.

【著者】 Nagata T, Mori K, Ohtani M, Nagata M, Kajiki S, Fujino Y, Matsuda S,
Loeppke R.

【雑誌情報】 J Occup Environ Med 2018 May;60(5): e273-e280.

【PubMed PMID】 29394196

【概要】

この研究は、日本の企業（製薬会社4社）で勤務する従業員の疾病または症状別の医療費および薬剤費、アブセンティズム（出勤しているにも関わらず、心身の健康上の問題により仕事の生産性が低下している状態）、プレゼンティズム（心身の体調不良が原因で遅刻や早退、欠勤や休職など業務自体が行えない状態）の詳細なコストの内訳を調査することを目的とした。研究デザインは横断研究で、最終的に12,350人（男性9,224人、女性3,126人）が解析対象であった。医療費・薬剤費は2014年度の健康保険組合のレセプトから取得し、アブセンティズム・プレゼンティズムは自己記入式質問票により評価した。1人あたりの年間健康関連コストのうち、プレゼンティズムは3,055ドル（約332,995円）、アブセンティズムは520ドル（約56,680円）、医療費・薬剤費は1,165ドル（約116,085円）であった。また、年間のプレゼンティズムによる労働生産性低下の症状として順に、頸部痛・肩こり、不眠、腰痛、眼の症状（ドライアイ・緑内障）、抑うつが挙げられた。また、国際疾病分類（ICD10）でカテゴライズすると健康関連総コストの上位2位はメンタルヘルスおよび筋骨格系疾患であった。プレゼンティズムによるコストは医療費・薬剤費の約3倍に相当し、企業にとって非常に大きな負担であることが示唆された。

【解説】

医療費や薬剤費の増大は大きな社会問題で、そのコストを抑えるには中年層である就労世代への予防介入が重要である。これまでの報告では、アブセンティズムやプレゼンティズムによる経済負担は医療費や薬剤費よりも遙かに大きいことが示され^{1,2)}、その対策が急

がれる。国内の報告では、アブセンティズムやプレゼンティズムによる経済的損失についての報告はあるが³⁾、医療費や薬剤費のデータを含めて検討した報告はなく、日本企業の疾患や症状の詳細なコストを試算した貴重な論文である。論文の結果では、プレゼンティズムによる経済的損失を引き起こす症状の上位に、頸部痛・肩こり、腰痛などの筋骨格系疾患やメンタルヘルスが示されており、これらへの対策に理学療法士が貢献しうる可能性を秘めている。過労死や労働災害、健康保険組合の赤字補填の企業負担などの問題が顕在化した2009年頃から、大企業を中心に「健康経営」（従業員の健康管理を経営課題として捉え、その実践により従業員の健康増進と会社の生産性向上を目指す経営手法）の取り組みが増している⁴⁾。「健康経営」の効果として、プレゼンティズム、アブセンティズムの改善や企業の医療費負担軽減、企業イメージアップが考えられる。従業員の健康増進には、食生活や飲酒、喫煙、ストレスと並んで運動は必要不可欠な要素であり、企業において産業理学療法を展開する糸口になるかもしれない。

【引用・参考文献】

- 1)Loeppke R, Taitel M, Haufle V, Parry T, Kessler RC, Jinnett K. Health and productivity as a business strategy: a multiemployer study. *J Occup Environ Med.* 2009; 51:411–428.
- 2)Loeppke R, Taitel M, Richling D, et al. Health and productivity as a business strategy. *J Occup Environ Med.* 2007;49: 712–721.
- 3)Wada K, Arakida M, Watanabe R, Negishi M, Sato J, Tsutsumi A. The economic impact of loss of performance due to absenteeism and presenteeism caused by depressive symptoms and comorbid health conditions among Japanese workers. *Ind Health.* 2013; 51:482–489.
- 4)最近よく聞く健康経営とは？. 独立行政法人労働者健康安全機構: 産業保健 21; 2014; 77: 2-11. [オンライン入手 2021_3_16]. 入手先:
https://www.johas.go.jp/Portals/0/data0/sanpo/sanpo21/sarchpdf/77_2.pdf

【研究会プロジェクト執筆担当者】

東北労災病院治療就労両立支援センター 佐藤 友則